

2025 年 12 月 18 日 第 164 回運輸政策コロキウム  
～ワシントン・レポート XXII～  
奥田専務理事 開会挨拶

皆様、こんにちは。

ただ今、紹介がありました、ワシントン国際問題研究所長の奥田でございます。  
第 164 回運輸政策コロキウムの開催にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

まず、本日はオンラインのみの開催であります、多くの皆様にご視聴の申込みをいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、今回で 22 回目となる運輸政策コロキウム「ワシントン・レポート」は、2019 年 3 月にスタートして以来、ワシントン国際問題研究所の研究員が自ら設定した課題について真摯に研究し、その成果を発表する場として活用させて頂いております。

本日は、釣 研究員がワシントン DC からオンラインで、特に米国内での動き、米国における空クル／AAM に関する政策について、進捗状況や新たな取り組みを解説するとともに、我が国が目指すべき方向性について考察し、発表させて頂ければと存じます。

さて、我が国においては「空飛ぶクルマ」、略して「空クル」、また、国際的には“Advanced Air Mobility (AAM)”と呼ばれる次世代航空モビリティをテーマとして取り扱いますのは、2021 年 1 月、2023 年 12 月に次いで 3 回目となります。

空クル／AAM は、その実用化に向けた機体の開発や制度整備が各国で進んでおり、我が国においては、先頃開催された大阪・関西万博において、短時

間ではありましたが、デモ飛行も実施されましたので、国内でもご関心の高い方が益々増えていると感じております。

前回、2023 年の発表においては、「米国における空飛ぶクルマに関する最新動向 2023 ～実用化に向けた米国内における多面的な取り組み～」と題し、製造各社の機体の開発状況のほか、米国における関連法規、運航のロードマップ・ビジョン、機体認証・運航・離着陸場等の基準・ガイドライン、人材育成等、実用化に向けた様々な取り組みについて、現地での調査・研究を元に発表を行いました。

本日は、釣 研究員の発表の後、コメンテーターとして、東京大学名誉教授・未来ビジョン研究センター特任教授の鈴木真二先生からコメントをいただきます。

その後、運輸総合研究所 屋井所長がコーディネーターとして、皆様との間で質疑応答という流れになっております。

本日の運輸政策コロキウム ワシントン・レポートが、ご参加いただきました皆様にとりまして、真に有益なものとなりますことを期待しまして、開会にあたりましての私のご挨拶といたします。

本日のご視聴、誠にありがとうございます。